

便箋

淑月

一文字ずつ
一言ずつ

余白を少し埋めてみた

誰に宛るのか
何を伝えたいのかも
実は知らない

ただこの宇宙の奥の奥にある
小さな扉の鍵を回してみる
かたくて開かないかもしれない
けれどもきつと何か眠っている

歩いてこれた日々
生かされてきた足あと
深めるしかなかった手の皺

ことばを
優しく呼び覚ますように
ただ待つ

ひとつもじずつ
ひとつことずつ
余白を生み出すように